日本勤労者山岳連盟・静岡県勤労者山岳連盟

裾野麗峰山の会 (sine１９９４)

第２７期・３巻　　２０２１年　　６月号　　ＮＯ．238

仲間と仲間を結ぶ機関誌

れいほう

Susono Reihou Alpine Club

雪の記憶

山行ＮＯ．１９１９
２０２１．０５．１５
富士山・日沢

２０２１年度　６月度例会資料　　２０２１、０６．０５

１．報告・当面の予定

０４月　　２４日（土）・・・天城・青スズ台　　会員５名＋ゲスト１名

０５月　　０３日（木）～０４日（金）・・・安曇野・天狗岩、飛騨乗鞍岳・山岳スキー　２名

　　１５日（土）・・・富士山・山岳スキー　　３名

　　１６日（日）・・・第２回理事会＝午前　代表者・理事合同会議、午後　理事会

　　１８日（火・個）・・・万三郎岳（シャクナゲ）　３名

　　２３日（日）・・・西丹沢　４名

　　２９日（土）・・・乗鞍岳（山岳スキー）

０６月　　０５日（土）

　　１２日（土）・・・この辺で白砂山

　　１９日（土）

　　２６日（土）・・・全国ハイキング活動者会議

　　２９日（火）・・・全国登山者研究集会に向けての課題別講演会

２．財政・・・会費、集めています。（合谷）

３．寄贈会報とピックアップ

「竜爪ミニ」　静岡労山　　５月号　　電子版

＊関ケ原、湖西 ALPS、伊吹山北尾根、山行予定など。

「やまなし山の会会報」　山梨・山の会　　６月号　　NO.289　　電子版　　P26

＊コロナだが、山行件数は、会史上最高だった、とか。

「くろゆり」事務局ニュース　　三島勤労者山岳会　　５月号　　NO.496　　P9　　電子版

＊鷲頭山パステルウオールで、会員５名、会員外５名の定例クライミング。

「あしたか」　沼津勤労者山岳会　　５月号　　NO.表記ナシ　　Ｐ１３　　電子版

＊計画、報告＝菰釣山、沼津 ALPS・春の箱根など

「あさぎり」　あさぎり山の会　５月号　　NO.331　　A4 判　　p51　　紙製本

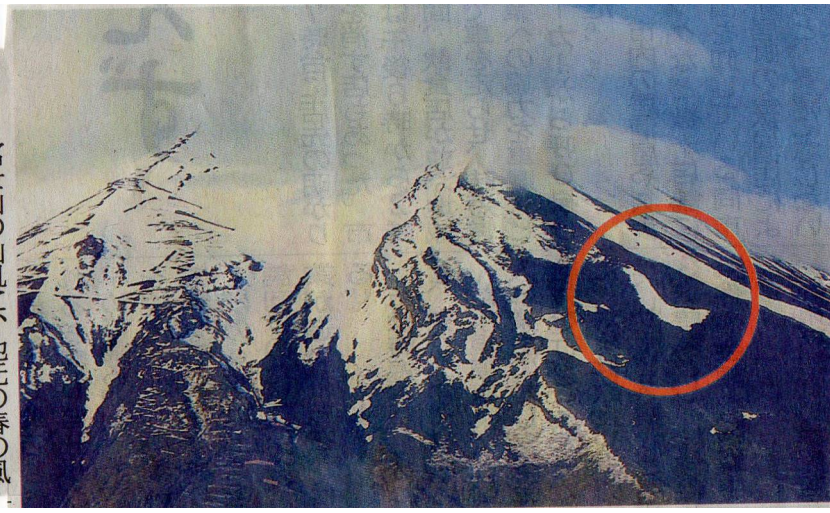
＊春、たけなわのハイキング報告多数。

「登山時報」　日本勤労者山岳連盟　６月号　NO.556　　特集「はるかなる尾瀬」　p40　紙製本

富士山に春「農鳥」出現 山梨

富士山の山肌に、地元の春の風物詩「農鳥（のうとり）」が今年も出現した。7、8合目付近の残雪が、山頂に向かって飛んでいく鳥のように見える現象。古くから田植えや農作業を始める時期の目安とされる。山梨県富士吉田市が確認した。今年は全体的に丸みを帯びた形をしている。

市担当者は市民に思いを寄せ「新型コロナウイルスに負けないよう農鳥を見て明るい気持ちになってほしい」。例年4月下旬～5月中旬に現れ、天候次第で1週間ほど見ることができるという。



5/20

外来のチョウ生息域拡大　餌競合、在来種に悪影響

特定外来生物に指定された中国原産のチョウで、1990年代から関東地方で増えているアカボシゴマダラが東北、中部地方などにも生息域を広げている。餌となるエノキの葉は、オオムラサキやゴマダラチョウなど在来種と競合するため悪影響が懸念される。

福島県いわき市小名浜の海岸近くに生える高さ約1㍍のエノキで12日、3㌢ほどのさなぎが羽化する様子が確認できた。

在野の研究者で専門書「新・福島県の蝶」を出版した渡辺浩さん(59)＝同県石川町＝によると、アカボシゴマダラはタテハチョウの仲間で、7～9㌢になる大型のチョウ。国内では奄美諸島に亜種が生息するが、90年代から埼玉県などで中国大陸から持ち込まれたアカボシゴマダラが見つかり始め、生息域を広げてきた。

環境省や専門家によると、関東1都6県のほかに福島、新潟、山梨、長野、静岡の5県で確認。北海道や宮城、山形、愛知、京都、大阪、兵庫でも目撃例がある。

1年に複数回、羽化する。渡辺さんによると、夏に羽化し羽に赤い斑紋がある夏型、春に羽化し赤い斑紋のない春型がいる。数が増えすぎれば、在来種とエノキの葉の取り合いとなる恐れがある。

渡辺さんは「飛ぶ能力が高く、生息地が日本中に広がる可能性が高い。きれいなチョウだが売買などで移動させないでほしい」と呼び掛けている。

羽化する、特定外来生物に指定されているアカボシゴマダラ　＝12日、福島県いわき市

5/16

5/20

「富士山の自然 関心を」

御殿場 NPOが冊子、活動紹介

富士山の生物多様性の復元と保全に取り組むNPO法人富士山ホシガラスの会（御殿場市、横山澄夫理事長）は2021年度までの活動経過を冊子「富士山 自然保護・環境教育活動の概要」（44㌻）にまとめた。生物多様性喪失の要因とみている非自生植物侵入の対策などを紹介している。

御殿場口新5合目周辺の火山荒原で実施した非自生植物の調査結果と、駆除活動の様子を掲載した。

ニホンジカ食害対策も取り上げた。シカが入れない保護柵設置や樹皮防護ネット設置といった植物保護施策、保護柵の効果を検証するため柵の内外で実施した植生調査の結果を載せた。

同法人の勝又幸宣事務局長は「非自生種侵入と食害に加えてナラ枯れが進むと森がどうなるか想像できず、森に依存した生き物にも影響が出る可能性がある」と指摘。冊子をきっかけに「富士山の自然に関心を持ってほしい」と話している。冊子は同法人のホームページから閲覧できる。

生物多様性に関する計画策定は自治体の努力義務となっており、市は21年度に富士山環境保全・教育推進事業補助金を創設した。同法人が続けている各種調査結果は計画策定の資料として活用が見込めるため、同法人が補助金の対象になった。

NPO法人富士山ホシガラスの会の活動を紹介する冊子＝御殿場市

5/18

切り抜きは、全て、静岡新聞

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・ＧＭ　　写真・ＧＴ
山行番	ＮＯ．１９１６
日　時	２０２１/４/２４（土）無風・晴・涼
山　域	伊豆天城・青スズ台（１２３７ｍ）
コース	水生地下駐車場８：１５－ 旧天城トンネル８：５０－向峠９：２５－標高１１８０ｍ峰１０：１８－林道－青スズ台（昼食）１１：００～１２：３２－大見分岐点１３：０５－水生地歩道入口１３：４０－駐車場１４：１５－湯ヶ島・
標高差	上り　駐車場６００ｍ ～ 青スズ台１２３７ｍ＝約６３７ｍ＋１３７ｍ 下り　青スズ台１２３７ｍ ～ 駐車場６００ｍ＝約６３７ｍ＋８０ｍ
快適度	５（５段階評価）＝藪なし
参加者	後藤、加藤、井上、星、斎藤由利子（ゲスト）、合谷＝６名

今日は会メンバー５名とゲスト１名の６名で、伊豆天城山の青スズ台の山行である。
裾野の自宅を 6 時半前に出発、途中で井上さんをピックアップし、下土狩駅近くの駐車場に６時５０分に到着。
下土狩駅で加藤さんと合流、7 時に後藤さんの車で下土狩駅を出発。
途中、竹原でゲストの斎藤さんをピックアップし、５名で伊豆天城山に向う。
（あと１名はメンバーの星さんで伊東市在住のため、現地集合である）
ゲストの斎藤さんは耳が聞こえない障害があり、特に車の中では皆マスクを付けていることもあってコミュニケーションが取り難かった。

駐車場

ヤマシャクヤク

８時過ぎには登り口の水生地下の駐車場に到着、伊豆縦貫道のおかげで伊豆天城はずいぶん近く、気軽に行き易い所である。
それにしても駐車場には結構車が停めてあり、コロナ禍でも我々同様に自宅でじっとしていられないアウトドア好きの人が多いということであろうか。
８時１５分に駐車場を出発。気温は少し寒さを感じるが、天気もよく周りの新緑がまぶしい。
駐車場から４１４号線を少し歩いて、天城峠のバス停の所から旧天城トンネルに向かう急登の登山道に

入った。登山道に入るとすぐに「ヤマシャクヤク」が群生しており、新緑の葉の上にまだ開いていない白い花が咲いていて可愛い。
いきなりの急登で、足が重いが気温が低いせいか汗はほとんどかかなかった。
１５分ほど登って旧天城トンネル口に到着、そこからさらに急登の登山道を２０分ほど登って９時前に旧天城峠に到着。
峠にはブナの巨木があり、登山者を見下ろしており、その根元は骨のようになって露出している。
樹齢は判らないが、数百年の歳月をかけてこのような威風堂々とした巨木に成長したのだろう。

天城の巨人（旧天城峠）

峠から登山道ではなく、ヴァリエーションコースで目的地の青スズ台に向かった。帰宅後にスマホでこのコースを確認したら、伊豆市と河津町の境界線とほぼ一致していることが判った。
このバリエーションルートは日当たりもよく勾配もそれほどきつくなく歩き易いし、ブナだけでなくヒ

メシャラの巨木も生えており、正に自然林の中を歩いている感じで気持ちがいい。
しばらく進むと「タコブナ」と呼ばれている枝がタコ足のように伸びたブナの巨木たちに出会った。
この巨木たちも数百年の風雪に耐えて生き抜いてきた天城山の主に違いない。それにしても、天城のブナの巨木には圧倒されてしまう。

タコブナ

昼食

更に進んで寒天林道と交差する辺りから馬酔木（アセビ）だらけの群生地になった。（たぶん、鹿が食べないので、馬酔木だらけになっているのではないか？）駐車場から３時間近く登って、１１時に青スズ台（１２３７ｍ）に到着。
頂上は広々としており、そこに山桜が満開状態で咲いていたので、その下で昼食をとることにした。昨年からコロナ禍で花見の宴会はご法度であるが、桜の下で栄養剤（ビール）を２本頂き、楽しい昼食となった。
昼食後、全員で記念写真を撮り、１２時半に下山開始。八丁池の方向に進み、その手前から南西方向に尾根を下った。１３時に大見分岐点に到着、そこで地図とスマホでルートを確認、水性地歩道を下り、１３時４０分に水性地歩道入口に到着。１４時１５分に駐車場に到着し、無事に６時間の山行は終了した。この後、湯ヶ島の温泉（いずみ園）に行って、山行の疲れを癒して帰宅の途についた。
天候にも恵まれ、天城山の樹齢数百年のブナやヒメシャラの巨木、満開のザクラを楽しめていい山行だ

った。

その他の記述（ごとう）

１．林道で山梨 NO の乗用車を２台確認。下にゲートがあり通行禁止。鍵の合わせ NO を知っているようだ。私は県の自然保護委員だから、止めて詰問。「釣りが、どうのこうの」と言い訳。後日、天城森林管理署に通報した。他県に来てロクなことをしない輩だ。

２．マメサクラ（フジサクラ・ハコネサクラ）が、見ごろで美しかった。

３．S さん、今回は良く歩きました。お花見のタケノコ・フキ・新タマが逸品だった。

青スズ台

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真　ＧＴ
山行番	ＮＯ．１９１６
日　時	２０２１/５/３（木）無風・晴・雪花
山　域	安曇野・天狗岩（１９６４ｍ）
コース	金松寺発７：０４ー水源地ー林道終点８：０３ー金松寺山９：２９ー天狗岩１０：３８～１１：２８ー金松寺山ー林道１２：５８ー金松寺１３：５５ー乗鞍岳に移動
標高差	上り　金松寺約７６０ｍ～天狗岩１９６４ｍ＝約１２０４ｍ 下り　〃
快適度	５（５段階評価）＝藪なし
参加者	後藤、加藤＝２名

連休は、山の遭難が多かった。今年は４月に入り、気温が低く、高山は冬の様相。下界は春だが、油断は禁物。槍で亡くなった方がいたが、普通、あの天気では突っ込まないでしょう。
私は冬の槍を北鎌尾根・中崎尾根と２回やっているが、天気が悪くなければ、全く問題は無い。山は天気で決まる。
連休は、何処の山にするか、なかなか決まらなかった。理由は悪天候。通常、この時期は、３日間くらい好天が続くが、今年はダメ。好天が長続きしないと、大きな山は出来ない。
特に東北が悪かった。当初、山岳スキーで鳥海山・尾瀬燧ケ岳など予定したが、結局、予定が立たず、３・４日で信州・里山、飛騨乗鞍岳で決定した。
３日は、まだ寒気が残り、風も強く、スッキリした天気は望めなかった。これでは、乗鞍岳は無理なので、安曇野の里山＝天狗岩（１９６４ｍ）に上る。
最近は、２山上る場合、なるべく１山は、未踏の初めての山を選択している。５０年以上、山をやっていると、知らない山が貴重になる。未踏の山は、何よりも、新鮮で登行意欲が旺盛になる。登山口は、梓川の金松寺駐車場。同名の山が途中にある。

梓川ふるさと公園から仰ぐ金松寺山

金松寺から仰ぐ金松寺山

金松寺７：０４発。風はなく天気は良い。寺脇の農道を上る。下山時、分かったが周りはソバ畑だった。水源地の動物除けのゲートを開いてフキの多い、尾入沢の林道を進む。土手に「コゴミ」が

チラホラ。帰りが楽しみ。約１時間で林道は終わり、本格的な登山道になった。入り口には、手製の看板があり、迷うことはない。
登山道に入る。元々は、鉄塔の巡視路のようだ。すぐ、道が崩壊していた。しかし、注意すれば問題はなかった。今回は、標高差が１２００m近くある。通常、この標高差だと、４時間掛かる。
ただ、登山道が完璧に「ジグザグ」（ちなみに、ジグザグは英語＝″zig-zag″）で、とても上り易かった。加えて、登山者が少ないので、岩などの露出がなく、膝に優しかった。

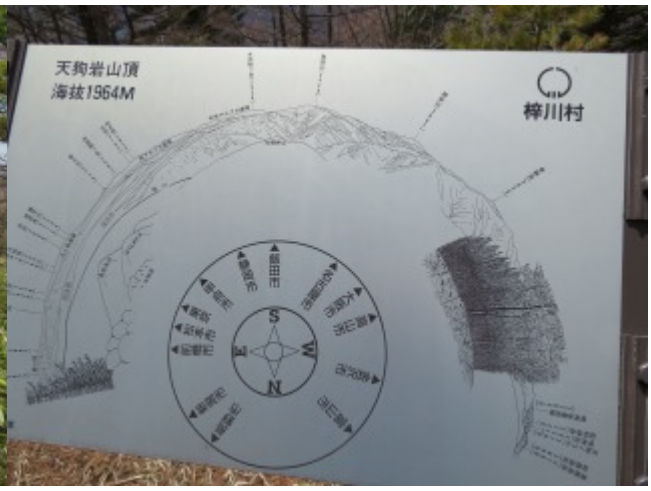
林道から登山口

崩壊地

金松寺山

花を期待していたが、「エンレイソウ（白）」くらいで、多くは見られなかった。頂上下で「梓川ふるさと公園」からの道と合する。真っすぐ行けば、金松寺山を巻いていた。下山時、巻き道利用がよろしい。
金松寺山着。２時間ちょっと掛かった。山頂標識はなかったが、三角点でない標柱があった。少し下って更に進む。前方に天狗岩（山）の三角ピークが見えた。相変わらず、気持ち良く、上り易い道が続く。
下からも確認できた残雪と新雪があった。残雪は、北面にベッタリ。新雪はササの間にあった。この時期、春だ春だで浮かれ、しっかりした心構えがない登山は怖い。案の定、槍・谷川で大きな事故があった。この時期過去の事故例は多い。
そもそも、ビギナーは、それらの事故例を知らない。無知は最悪。天狗岩とおぼしき岩峰が左手に

見えた。上空は気温が低いらしく、「風花」が盛んに舞っていた。明るい空から舞い降りる雪は、不思議な感じだった。ただ、この日、槍で遭難があった。高山は荒れていたと思われる。頂上に着いた。下から３時間半だった。
頂には三角点があった。立派な看板もある。頂上のちょっと下に「天狗岩」があった。眼下に島々谷が俯瞰できた。標高差は、約１３００ｍある。落ちればアウト。ここで昼食。足元を見たら、「ハーケン」が３本あった。天狗岩でクライミングをやっているようだ。



天狗岩頂上

頂上石仏

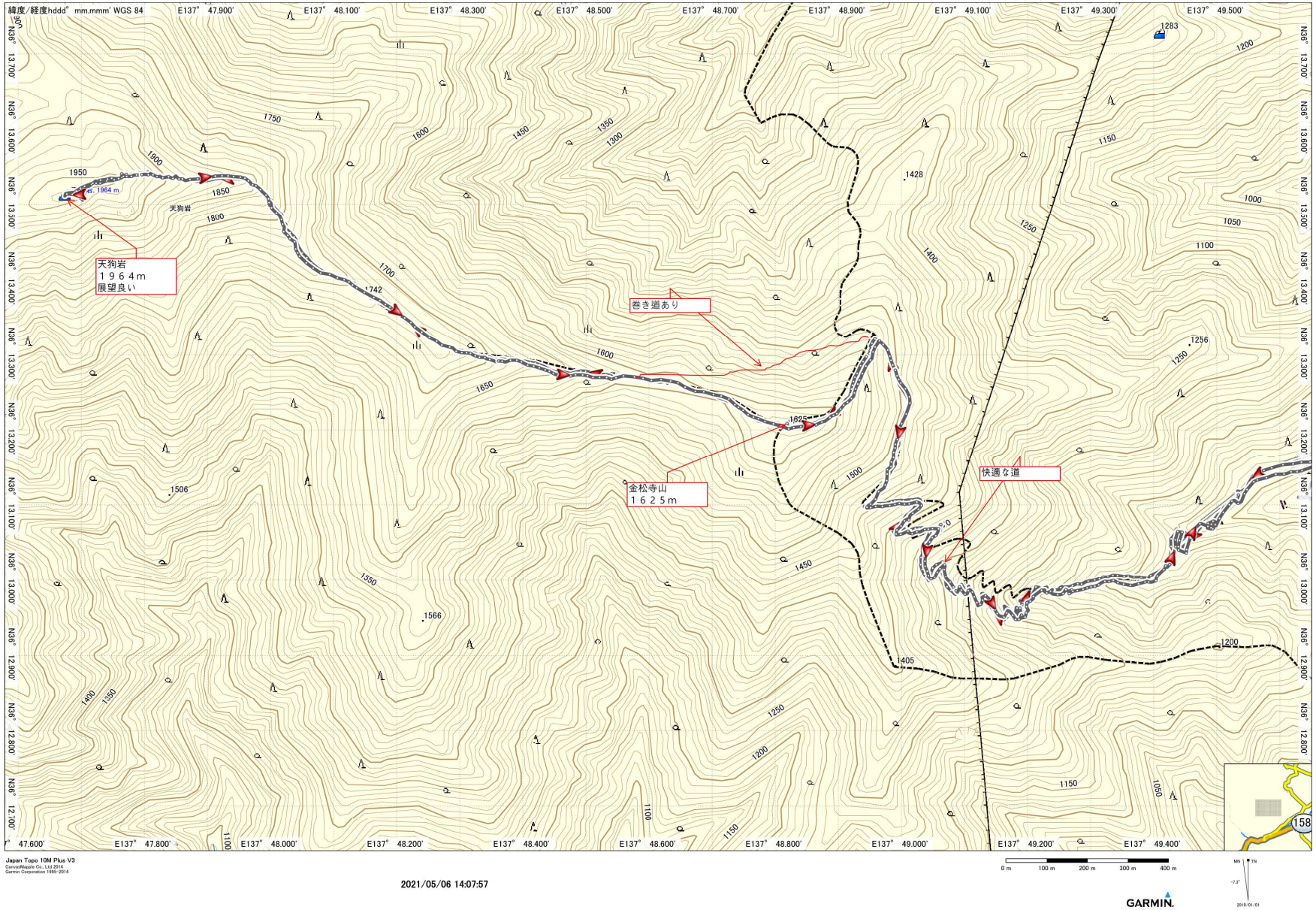
天狗岩から安曇野俯瞰

天狗岩のハーケン

天狗岩」のクライミング記録を検索したがなかった。思うに、ここまで上ってクライミングは、歩きが長くて、なかなか厳しいだろう。相当のマニア？でなければ・・・。

ソバの種まき若い衆

昼食を済ませ下山。前述のように、フカフカ道で下山は楽だった。簡単に登山口林道着。林道の土手で「コゴミ」と「フキ」を収穫。
「コゴミ」は、夕食時、マヨネーズで頂いたが美味しかった。寺上に来ると、畑仕事の方がいた。聞けば、「ソバの種まき」という。大きなトラクターに肥料・種を入れて蒔いている。やっている方は若い方だった。
　彼らは、畑の地主でなかった。地主は既に耕作を辞めてしまった。その土地を若い衆が借りて耕作をしているという。それで食べて行けるのか、疑問だったが、若い耕作者に様々な補助金などがあり、援助をしているのかも知れない。ま、それはそれでイイだろう。
寺駐車場着。寺は静かだった。由緒ある寺の様で境内にしめ縄に囲まれた仏塔があった。結局、連休だったが、安曇野の里山は無人で静かな山だった。


緯度/経度hddd° mm.mmm' WGS 84
天狗岩
1964 m
天狗岩
１９６４ｍ
展望良い
巻き道あり
金松寺山
１６２５ｍ
快適な道
Japan Topo 10M Plus V3
2021/05/06 14:07:57
GARMIN

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真　ＧＴ
山行番	ＮＯ．１９１８
日　時	２０２１/５/４（金）晴・上部風
山　域	飛騨・乗鞍岳（肩の小屋まで・約２７５０ｍ）
コース	三本滝駐車場７：３０ー位ヶ原９：３４ー肩の小屋口１０：３１ー肩の小屋１１：２３ー滑降ー位ヶ原ー位ヶ原下１２：００ーゲレンデー三本滝駐車場１２：５８
標高差	上り　三本滝駐車場約１８００ｍ～肩の小屋約２７５０ｍ＝約９５０ｍ 下り　〃
快適度	５（５段階評価）＝藪なし
参加者	後藤、加藤＝２名

３日＝乗鞍岳に移動。見上げる乗鞍岳は、真っ白で真冬の様相だった。風が強く、まるで冬そのものだった。
４日＝天気予報通り、無風快晴高温だった。位ヶ原山荘までバスが入る予定なので観光センターで待機。大きな駐車場に車は４０台くらい。ちょっと少ない感じ。何故だろう？
そうこうしている中、何台の車が上に上って行く。ちょっと変だ？何処かの方がバス停で何かを凝視している。何だろうと思い声を掛けた。バス停には、一枚のビラが風にユラユラしていた。ビラの文面は、「３日・１２：００現在　位ヶ原までの林道の積雪状況が不明なので、４日（この日）９：３０まで、運行は休止します」とあった。

お知らせのビラ

乗鞍岳

ガビ～ン！！なんちゅ～ことだ。こんな大事なことは、もっと大きな表示が欲しい。事務所に電話したら、「これから道路を調べて、0k なら、１０：３０から運行です」の返事。これでは何時に出掛けられるか分からない。それで、上って行く車の理由が分かった。車は、上の三本滝駐車場まで上って、そこから歩くのだった。
我々も即決断。三本滝まで上った。観光センターに車が少ない理由が分かった。殆どの車がここまで上っていたのだ。最初からバス使用予定はなかったのだ。理由は、ハッキリしていた。この時期、乗鞍岳に上るには、二つのコースがある。

予定していた、位ヶ原山荘は、標高約２３５０ｍ。頂上まで約７００ｍ。時間は約２時間。短くて楽だ。しかし、その分滑降は楽しめない。三本滝は、標高約１８００ｍ。位ヶ原山荘と標高差は５５０ｍある。その分、滑降は長く楽しめる。

ツアー・コース

ただ、三本滝は標高が低い分、雪解けは早い。雪が上部に繋がっていなければ使えない。しかし、しかし、雪は駐車場から見事に繋がっていた。これなら使える。例え、バスが使えても、時間が遅いので、頂上を狙う方は、早朝、ここから歩いた方が早い。標高差５５０ｍなら、２時間余分に歩けば OK ある。
しかも、往復３０００ーの高いバス代金が「儲かる（？）」もっと、早くビラに気が付くべきだった。いや、というか、バス利用は、そもそも戦略が間違っていた。最初から、三本滝から上るべきだった。乗鞍の５月連休は初めてで、それが分からなかった。経験不足が否めなかった。
それでも、三本滝を７：３０に出発出来た。ゲレンデ最上部からツアーコース頭は、急登なのでスキーは背負って行く。天気は、無風快晴。やや硬い雪を踏む音だけがザックザックと耳に響く。
ゲレンデを上り切り、ツアーコースの壁を越えて、シールで上る。雪が締まっているので、スキーのが楽だ。ゾロゾロゾロ、多くの方が上って行く。

乗鞍岳は、昔よく通った。最初に訪れたのは、１９９４年３月だった。

http://susono-reihou.babyblue.jp/1-2-2.pdf

私、長岡、加藤（貫）、香取の４名。M 労山で山岳スキー。記録を見たら、国民宿舎から頂上まで標高差＝約１５２６ｍ。上り時間は約７時間だった。この時は、鳥居尾根～位ヶ原経由だったので、大回りで時間が掛かった。それでも、３月によく頂上を落した。下りは、２時間だから、やっぱりスキーは速い。

位ヶ原

位ヶ原（風がある）

笑ったのが帰路で、遅くなったので、安曇湖畔でテント泊し、家帰着は、６：００の朝帰りだった。安曇湖の記憶は全くないが、何処にあるのか調べたら、古代はあったらしいが、現在は存在しないようだ。
湖があった証拠に現在も、島々・島内・渚・海渡などの名称が残る。そういえば、先日入った温泉の看板に、安曇人は元々、九州から来た「海族」とあったが・・・。しかし、何処にテン泊したのだろうか。不思議だ？？

位ヶ原に上がる壁に達した。今年３月１５日、大きな雪崩があり、１名亡くなった。以前から、雪崩要注意箇所。毎年、規模の大小はあれ雪崩がある。雪崩は、偶然でなく、毎年・毎回、同じ個所で発生する。だから、ある程度は回避できる。
上る時は、沢中心でなく、左手の尾根を上れば、例え雪崩に遭遇しても、大事に至らない。山の事故は、「過去に学ぶ」ことが大切だ。

大きな大きな乗鞍岳

壁を抜けて位ヶ原に出た。広大な雪原が広がる。いつも風がある。今回も晴れているが風が強い。地形的なものだろうか。それでも傾斜は緩くなり、上りは楽になった。
真っ白い乗鞍岳が圧倒的。 多くの登山者が、蟻のように、上へ上へと上って行く。さながら蜘蛛の糸の亡者のようだ。右手奥に建屋が見える。夏、バスが終点の「肩の小屋口」だ。標高は約２６５０ｍ。
多くの登山者が休んでいる。本来、トイレがあるが雪で塞がって使えない。行儀は悪いが裏で済ませた。トイレを我慢するのは良くない。特にスキーの場合は、瞬間的に膀胱に大きな負荷が掛かるので、満タンだと危険といわれる。
下る方もいるが、標高約２７８０ｍの肩の小屋まで頑張る。小屋下は風が強いことも相まって、雪面はカリカリに凍っていた。今回はここで終了。バス運行停止が分かっていて、あと２時間早く出れば、頂上に行けただろう。ちょっと残念。
滑降に移る。 最初は慎重に下るが、すぐ雪が良くなって、大胆に攻める。 ザラメのサイコーの雪だった。 このところスッキリしない滑降が多かったが、今回は超サイコーだった。 雪が適当にホドホドの抵抗があって滑り易い。
ガンガン攻める。 スキーをやっていて良かったと思うのはこんな時。 ま、しかし、山岳スキーは、９９％地獄で天国は１％だ。 ただ、その１％に救われる。
１２時を回ったが、それにしても、多くの方が上って来る。 いささか遅いじゃないでしょうか？？

ある意味、上って来る方を見ながらの滑降は、快感といえば快感。 ちょっと嫌みったらしいが、「ご

位ヶ原滑降

苦労さま～」の感じである。
極めて快適にガンガン下って行く。先に雪崩があった壁がある。雪の状態が悪いと、厳しい場所だが、今回は問題なかった。イイ感じで下った。
下りきった所で大休憩。風がなく陽光が溢れシアワセ。休憩後、ツアーコースを飛ばし、ゲレンデ上の壁。ここも、中々、難しい。横滑りでこなしてゲレンデに入る。ゲレンデは中壁に雪がなく歩いた。

最下部のゲレンデを滑って終了。先行していた方を最後に抜かした。スキーの場合、交通機関まで、「如何に歩かないか」が問題。最上級のスキーをやっても、車まで１時間も歩いたら楽しくない。最近は少雪でおおむね難しくなったが、以前は、富士山・富士宮口スキーは、完全に五合目駐車場まで滑り降りえた。頂上から滑降して、歩行は０ｍ。完璧な山岳スキーだった。
しかし、昨今の温暖化で昔の様相はなくなってしまった。兎に角、雪が少ない。スキーは、山岳でもゲレンデでも、雪が多くないと全うできない。車に到着しラーメンで空腹を満たした。インスタント・ラーメンだが、実に美味しい。勿論、雪塊で冷やした、ビアもである。

位ヶ原

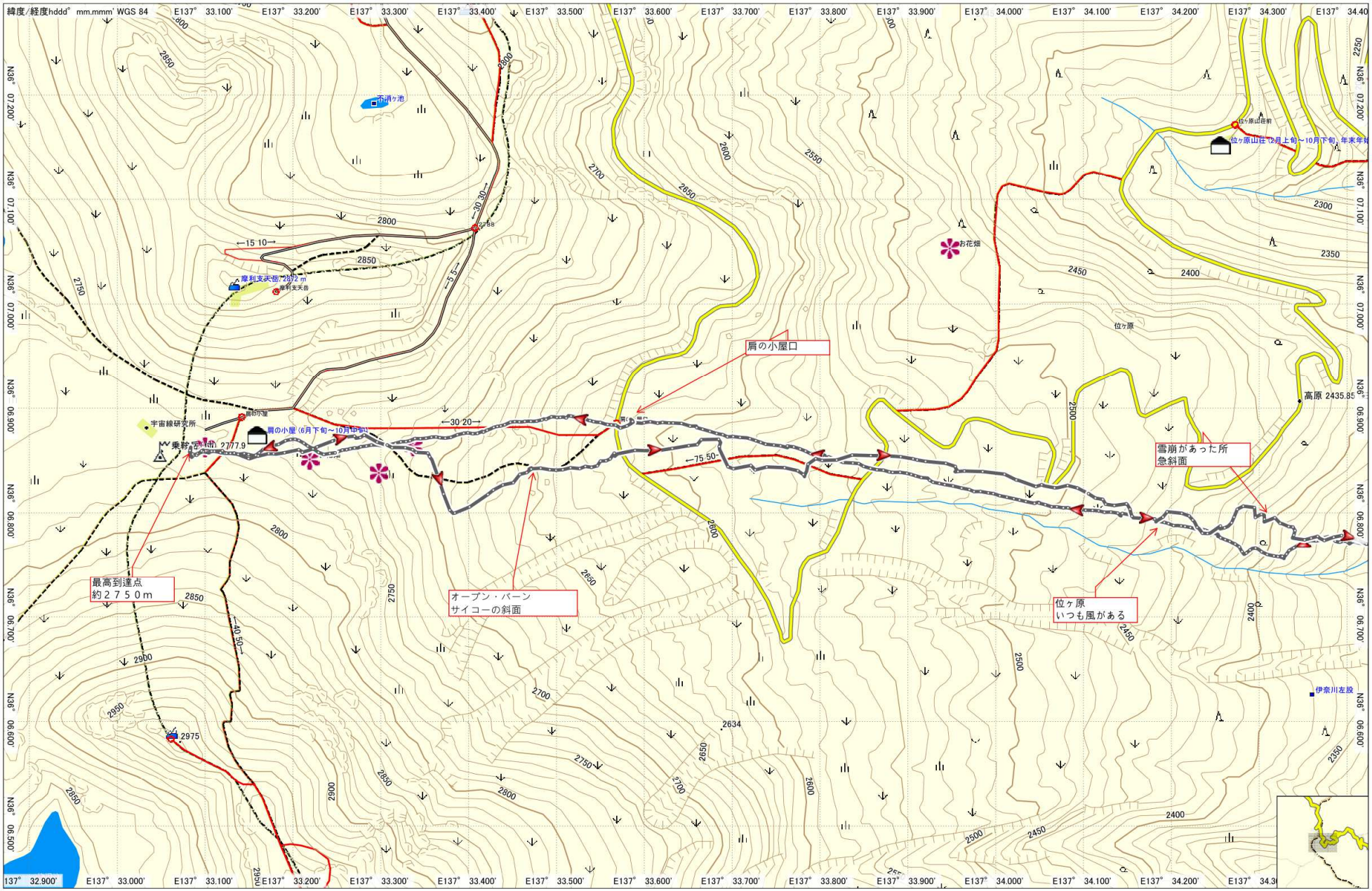
隣の車の方が降りて来た。我々より出発は早かった。肩の小屋までといった。聞けば、一人の方は「静岡市」だった。静岡労山も知っていた。名刺を渡したが名前は失念した。（メールが来れば判明だが）
今回は、久しぶりの乗鞍岳だったが、サイコーの山岳スキーを堪能できた。また、行こう！！！
（１２日分かったが、この日、歩きで静岡労山のＳさんも上ったという。交流出来ず残念だった！！！やっぱり、事前情報が必要だね）

ゲレンデ下部

ゲレンデ最下部

三本滝駐車場

ビア・ビア



2021/05/06 14:07:57

裾野麗峰山の会・山行報告書		文・ＩＫ　　写真・ＧＴ
山行番	ＮＯ．１９１９（個人山行）	
日　時	２０２１/５/１５（土）晴・高温・風なし・霧なし	
山　域	富士山（九合五勺・３５５０ｍ・山岳スキー）	
コース	長泉・米納里５：００ー富士宮・五合目発６：４６ー八合目１０：１６ー九合目１１：１５ー九合五勺１２：１５～滑降開始１２：５８ー滑降終了（六合五勺）１４：１０ー五合駐車場１４：４０ー御胎内温泉ー長泉・反省会	
標高差	上り　五合駐車場約２３７０ｍ～九合五勺約３５５０ｍ＝約１１８０ｍ 下り　〃	
快適度	５（５段階評価）	難易度　非常に困難　レ困難　普通　やや易しい　易しい
長く痛い登りと、一瞬の快楽の下り		
参加者	後藤、加藤、井上＝３名	

スキーか登山かは現地で決める。準備は両方することと連絡があり、靴もアイゼンも 2 セット、ピッケル、ストック、ヘルメット、雪山用のゴーグル、サングラス、帽子、ネックウォーマ、手袋

五合目駐車場

新六合・雲海荘

八王子の方々

3 種、もろもろですごい荷物となった。

5:00 竹沢種苗店で後藤さんの車に乗る。加藤さんとは水ケ塚で合流の予定。加藤さんは、水ケ塚で前日車中泊。加藤さんに少し遅れそうだと電話をかけたら、寒いので先に五合目に行くとのこと。時折頂上が見えるが、今日は曇りの予報。五合目より上は晴れていることを望む。

五合目についてみると、頂上が見える。駐車場はそこそこ空いている。奥のブル道から登るので一番奥に車を停めた。「好天・高温・風がない・霧がない」の「４Ｋ」のスキーの条件を満たし、スキーをかついで登ることになった。

できるだけ軽量にするために、クトー（スキーアイゼン）、スキーのシール、ピッケルも持っていかないことにした。ヘルメットはかぶった。

6:46 出発。雪なき道をスキーブーツで登る。スキーブーツの中の足が痛い。新六合の小屋でスキーのおじさんが 2 人休憩していた。八王子からとのこと。しかし休憩には早すぎないか？高齢に見えたので年齢を聞くとなんと 63 歳と 60 歳と以外と若く、後藤さんの歳をいうとびっくりしていた。ここでは、加藤さんの歳は言わなかった。63 歳の方が頂上火口を滑りたいとのことで 60 歳が連れまわされているらしい。60 歳は 63 歳のことを、この人変態なんですと言っていた。みんなクレイジーかも。

六合小屋

そこからは、外国人が次々と抜いていった。細い人もいるが、見るからに米軍キャンプから来ているようなマッチョな容姿の人が多い。半袖や半ズボンの人がいたが、一人はなんと上半身裸で登ってきた。後藤さんが「Crazy！（クレイジーだ）」 というと、「Sometime crazy（時々、クレイジーです）」 と返してきた。

富士山にスキーをかついで登っているのも、彼らから見れば私たちは十分クレイジーかもしれない。その後、日本語ぺらぺらの外国人が多数追いつき抜いた。中には日本人男女も 2 人いた。色々聞いたが総合的には、自分たちは「関東アドベンチャー」という企画のグループでガイドのひげの人は埼玉に「ハイカーズ B&B」という宿泊施設をやっているとのこと（ネット検索するとこのガイドをやっている人は David という名前で日本に 10 年以上住んでいるよう）。

今回のグループはこれまでに雪山をいくつか登ってきており、今日はその最終登山でガイドの自分は列の最後を歩き、参加者が自分たちで登るという趣旨だそうだ。

あまりにも日本語が流暢で、英会話の練習のチャンスはなかった。他に沖縄の空軍基地から泊り

できている外国人のグループもいるとのこと。七合の休憩では日本人は私たち 3 人で、あと 9 人は外国人で、私たち 3 人が外国の山にきたようだ。このグループにはタイ人女性もいて、日本人かと思った。一人だけスノーボードを持った人がいたがあとは登山スタイル。

上半身裸のクレージー野郎

関東アドベンチャーの方々

道に雪はあるが、アイゼンなしで登れるのでまだ付けない。まわりの人は少しずつ付け始めていた。先月の青スズ台の時に話題になった「鼻呼吸」を試したらとても楽だった。鼻から吸って口から吐く。しっかり口で吐くと、鼻からしっかり空気が入ってくる。口だけで呼吸すると、少しだけ吸って少しだけ吐くことを繰り返し呼吸が苦しくなるが、鼻から吸うと深呼吸になるのか全く苦しくない。鼻水もでなくてよろしい。

しかし、動いているときは鼻呼吸で楽だが、止まると息が苦しくなった。立ち止まると酸素の薄さを感じるのはなぜだろう。また、時々頭がふらつくので低酸素を感じる。五合目で到着後すぐ出発したので十分な高度順化ができてないのだろう。

10:16 八号の小屋の上のスロープで関東アドベンチャーのグループが尻セード（お尻で滑る）からのピッケルで止まる練習をしていた。私たちの場合は、ピッケルは体にスリングでつないであるので落とすことはないが、彼らはだれもそれをしていない。

もし滑り落ちたら、手から離れて使えないだろう。その後、スパッツ姿のおじさんが登ってきて、宝永火口を見に来たが上を見たら登っている人がいて、登れることを知り登ってきたと言っていた。ピッケルもアイゼンもなしで、靴もまっとうな登山靴ではないので危ない感じがする。（絶対、危険。遭難予備軍。ったくも～、救助隊のことも考えろ！！）

11:15 九合でアイゼンを付ける。背中の荷物が軽くなるのを感じる。すでに肩、背中が荷物の重さで痛くてしょうがない。2 本のストックを使って登るので腕も痛い。
加藤さんが間違えてアイゼンを 2 個持ってきたことに気づく。さらにスキー用アイゼンのクトーやスキーのシールもザックに入っており、後藤さんと私より重い荷物をかついでいたことが判明した。スーパーウーマン加藤さんにはこれくらいのハンデがあってちょうどいい。

頂上の方を見ると、抜いていった人も止まっているように見える。皆、苦しくて少し登っては立ち止まって休んでいる。以前なら、上も下も数珠つなぎで人が線でつながって見えたが、今回はコロナのせいか、普通の雪山登山に少し多いぐらいだ。

このくらいでよい。つながって見えるほど人がいると、夏の富士登山みたいで辟易する。スキー

をするにも人がいないほうが気持ちいい。この点はコロナのおかげだ。

やはり、富士山は偉大だ

12:15 九合五勺（3550m）到着。ここまで、標高差 1180m を約 5 時間 30 分。頂上までは標高差 226m あり、往復 2 時間は必要。登頂しても、頂上直下は雪面の幅が狭く、角度も恐ろしくきつく、アイスバーンと大きな岩がゴロゴロして、私のスキー技術では下りられない。

当初の予定通り、ここで本日の登りは終了。アイゼンを外しスキーの準備をして、少し食べ物を口に入れる。後藤さんはセブンイレブンの「ミニいなりずし 3 個」をお気に召したようだ。スキーヤーとボーダーが滑り下りてきた。後藤さんのスキーがなかなかはまらず、加藤さんも同じ金具なので二人でかなり苦労して付けた。私のは古いタイプで取り付けは簡単だ。

12:58 にスキー開始（この時、時計を見たが、この後にも、後藤さんと加藤さんのスキーのセッティングをしていたかもしれない）。

隣の東の沢（日沢）にトラバースし、滑降開始。最初はボーゲンと斜滑降をこわごわと試し、さあ、スイッチオン。いつもの大ターンに挑戦。斜滑降から遠心力で大きな円弧を描きスピードにのったままターンを繰り返す。

この加速感、遠心力がたまらない。時計を見ると 13:18 であっという間に宝永火口手前まできた。ここで隣の西の沢に歩いて移るためスキーを外す。沢に出るとスキーを付けて最後の滑降。14:10 スキー終了。板を外してザックに取付け、スキーブーツで歩く。大変歩きにくい。ブーツの中の足はかなり痛いくなっている。3 人で足が痛いと嘆きながら歩く。

Ｋ姉御が落ちる

ようやく五合の駐車場に到着。ブーツを脱いで足を開放してやると、この上ない解放感で幸せを感じる。片付けをして、お茶やビールを飲んでまったりと過ごす。御胎内温泉で汗を流す。最後は、長泉に帰り、いつもの下土狩の居酒屋「満貫」で反省会。私は、ここまでビールを飲まなかったので、これまた最高においしいビールだった。

（余談）

・翌日、自宅でスキーの手入れや片づけをしていたら、片方のビンディングのネジが外れており、前の部分がブランブランであった。事前にチェックすべきであった。また、今回改めて知ったことがあった。
スキーブーツで歩くときはウォークモードで足首が自由になるが、スキーモードにすると足首が固定される、というのは知っていたが、足首をかなり前傾させてからカチッというところで切り替えなければいけなかったようだ。
これまで、スキーの時にスキーモードにしていたつもりだったがウォークモードでスキーをしていたようだ。それから、かかとのロックもやり方を反対にしており、スキー中にブーツのかかとが板から離れてスキーの操作が不安定なことが多かった。この 3 つのミスがなければもっと楽しく最高のスキーができたはずだ。残念。
・女性で登っている人は何人かいたが、皆若いし、ましてやスキーをする人は一人もいない。加藤さんは、女性の富士山スキー最熟齢でギネスブックに掲載ではないか。

ゴルゴ１３が落ちる

・日焼け止め対策をしなかったので、翌日、顔のサングラス以外の部分が真っ赤になりヒリヒリして辛かった。

・私の富士山富士宮口のスキーの過去 2 回の記録

2012 年 5 月 19 日　1 回目

後藤さんと諏訪部さんと 3 人。5:50 スタート。初めからずっと眠気があり、途中 10 分睡眠をとった。足が前に進まない。気がのらない。後藤さんとも諏訪部さんとも遅れて休憩しては少しずつ歩いた。

12:10、6 時間 20 分ホウホウの体で登頂。後藤さんから携帯電話かトランシーバですぐスキーを付けて下りてこいとの指示があり、スキーを付けたもののあまりの厳しい斜面の状況に恐れをなし、　カニ歩きでスキー板一枚分ずつ下った。

私の技術ではターンはできないので確実に死ぬと思った。14:30 ゴール。しかし、この経験は、この後ずっと私の山登りの一番の自慢話となっている。

2014 年 5 月 4 日　2 回目

後藤さんと勝又さん（ツボ足）の 3 人。6:25 スタート。12:00、私は 3300m のあたりで時間切れとなりスキー滑降。後藤さんは九合まで。勝又さんは登頂。この日は、五合駐車場まで雪があり、

最後までスキーで下りた。
12:50、駐車場までスキーで下りてきたのでギャラリーが「すごい」を連発して気持ちよい。登頂はできてないが。勝又さんは 13:50 ゴール。それでも 2 時間弱で下山している。

その他の記述（後藤）

１．富士山山岳スキー「４Ｋ」は、私が考えた。が、今回「新４Ｋ」を考えた。
　イ．厳しい　　ロ．かったるい　　ハ．勘弁して　　二．帰りたい。　更に「こんな人生、もう嫌だ」を追加。（ ´ 艸 ｀）

２．外人（表現は、正確でないが）の体温は、一体どうなっているのか。２～３度高い？
　裸で上れるなら、「装備が軽減出来る」のでは。

３．積雪量（雪渓）の長さは、ここ数年変わらず、六合五勺までだった。ただ、九合上は、４月の低温の影響か、新雪が３０ｃｍほどあった。富士宮頂上鳥居下も例年、岩がかなり露出しているが、今回は真白だった。頂上から快適に滑降するチャンスだった。

４．今まで滑降時、転倒は殆どなかったが、今回、２回転倒した。ターン時、堪えきれずバランスを崩し転倒する。尻もちを着く程度で問題はないが、これも加齢か。

５．今回は、新六合に、「当てつけ的なゲート」がなかった。一応、７月の開山日まで登山は禁止。何故か不明。

６．レストハウスが放火でトイレが使えなくなったが、簡易トイレがあった。

Ｋ姉御

ゴルゴ１３

ＧＧが落ちる　　（了）

日本勤労者山岳連盟
静岡県勤労者山岳連盟・東部ブロック
裾野麗峰山の会（愛称・れいほう山の会）
会報「れいほう」
第２７期・３巻　　２０２１・６月号　　NO.２３８
連絡先　静岡県駿東郡長泉町下土狩 1541-12　徳山荘
090-8956-9990　　055-986-6075
HP　　http://susono-reihou.babyblue.jp/
mail　　takanori_reihou8888@yahoo.co.jp

5/12　三島市・山中新田

4/28　富士宮・下之坊